

デンタルスタッフ☆ミライ☆プロジェクトニュース

Dental staff
Mirai
Project
News

講演要旨特集号

—山崎先生のお話を聴かせて頂き、
本当に自分の中でのモチベーションがあがり、
患者様のためにも勉強していきたいと思いました—
(参加者の感想より)



講演要旨 歯科衛生士対象講演会を開催

絶対に治せる歯科衛生士になりたい
歯科衛生士になって20年。患者さんが教えて下さったこと

講師 山崎瑞穂先生 当会主催DH Pro.セミナー講師・フリーランスDH

2月28日、54名の参加で歯科衛生士対象講演会が開催され、「絶対に治せる歯科衛生士になりたい—歯科衛生士になって20年。患者さんが教えて下さったこと」をテーマに、山崎瑞穂先生（当会主催DH Pro. セミナー講師・フリーランス歯科衛生士）にご講演頂きました。講演要旨をご紹介します。

(1) これまでの道のり

- ・学生時代は遊ぶ事しか考えておらず、社会人になっても意識の低いまま4年経過。
- ・歯科衛生士を楽しみ輝いている友人に影響を受け、歯周治療に力を入れている歯科医院へ再就職
- ・スマイリーズを結成（2004年12月～）
…歯科衛生士の友人5人で2ヶ月に1回勉強会開催
- ・伊藤守先生との出会い
…コーチングを初めて日本に伝えたと言われる伊藤先生より「あなたがいてくれるだけでいい」と相手を心から認め受け入れることの大切さを学ぶ。
- ・プロの歯科衛生士になるためには、コミュニケーション力だけではなく、自信を持って治療をできるよう、自分自身が修行を受ける必要があると気づく。

見えてきた自分の想い

絶対に治せる歯科衛生士になりたい

(2) 歯科衛生士として大切なもの

知識

技術

人間力

- ・講演で紹介した7症例（ケースプレゼンテーション）を通じて、歯科衛生士として大切なものは「知識・技術・人間力」である、と歯科衛生士になって20年で改めて感じた。臨床を通して患者さんから教えて頂くことが毎日たくさんある。

歯科衛生士として大切なもの

知識

技術

人間力

- ・歯科衛生士の行う炎症のコントロールとは、病気を治して健康に導くことである。
- ・しかし、そもそもなぜ病気になったのか、ただ治すだけでなく患者さん自身が病気と向き合うことが大切であり、病気になった生活習慣を見つめ直し、生活改善していくこともまた大切である。
- ・いかに予防が大切かを伝え、QOLや健康意識の向上を目指す。
- ・患者さんの口腔内を診て、正確な所見と治療計画を立てるだけではなく、患者さんの口腔内にあったホームケアの方法を提案できるよう、自分で勉強していく必要がある。

歯科衛生士として大切なもの

知識

技術

人間力

DH Pro.セミナー（全6回コース）

繊細の指の感覚やこれまで経験してきた内容を講義を実習形式で学ぶ歯科衛生士実習セミナー。
今年6月～11月まで月1回・全6回コースで開催する。

※好評につき受付終了となりました。
たくさんのご応募ありがとうございました。

DH Pro.セミナーアドバンスコース
（全6回コース）

実際の歯科医院で、分岐部のアプローチや隅角部のSRP等、歯肉を育てていくために歯科衛生士ができることを実習形式で学ぶセミナー。今年12月～来年5月まで月1回・全6回コースで開催する。



Dental staff Mirai Project News



講演要旨 歯科衛生士対象講演会を開催

絶対治せる歯科衛生士になりたい

歯科衛生士になって20年。患者さんが教えて下さったこと

講師 山崎瑞穂先生 当会主催DH Pro.セミナー講師・フリーランスDH

▶ 表面からの続き

歯科衛生士として大切なもの

知識

技術

人間力

傾聴・明るい性格・患者さんのことを知りたいと思う気持ち・話題が豊富・スタッフからの信頼・患者さんからの信頼…

人間力の本物度を磨き、内面・外見ともに人間性を高めていくことが大切。

(4) 本物の人間力

1 歯科衛生士としての取り組み

- ① 事前のメディカルインタビューと問診
- ② 現在どのような状態なのか
- ③ なぜこの状態になったのか
- ④ 今後どのようなことが予想されるか
- ⑤ 治療がなぜ必要なのか
- ⑥ 治療のメリット・デメリットは？
- ⑦ 治療期間と回数はどのくらいかかるのか

2 歯科衛生士としての継続的な取り組み

- ① “プロ”としての信頼を保つ
- ② 天然歯の素晴らしさを伝えていく
- ③ 否定形ではなく能動形で話しかける
- ④ 継続的なメンテナンスとSPT
- ⑤ 口腔状況に合った道具の選択と管理

患者さん自身が「健康になりたい!」という意志をもつゴールを、一緒に見い出す。

3 患者さんを理解する

- ① 目配り、気配り、心配りをする。
- ② 変化する患者さんの状態を把握する。
- ③ 歯科医師と情報を共有していく。

4 患者さんのことを知る

- ・メディカルインタビューと問診を使い分け、口腔内だけでなく、全身を診る。

メディカルインタビュー

患者さん目線

患者さんを知る・理解する

患者さんに共感しながら進める

問診

医療者目線

診断のための情報収集をする

道筋つけて倫理的に進める

生活環境、性格、職業、睡眠時間、ストレス度合い、社会的立場等、患者さんのバックグラウンドを考える

5 患者さんへの言葉かけ

患者さんの行動に影響を与える自己効力感

- ① 代理体験…他人が達成した姿をみて、「自分にもできるかも」と期待感を持つこと
- ② 言語説得…言葉で第三者から何度も達成を説明される言葉による励まし
- ③ イメージ体験…成功へのイメージトレーニング

患者さんへ行動変容を求めるだけではなく、伝える側も患者さん一人一人に応じた対応や言葉かけをする必要がある。

(5) 最後に…患者さんが教えて下さったこと

- ・ 患者さんの話をただ聞くのではなく、注意を払って、より深く、丁寧に耳を傾けること。患者さんを取り巻く現在の環境から過去のことなど含め背景を知ること。自分の訊きたいことを訊くのではなく、相手が話したいこと、伝えたいことを共感的な態度で真摯に“聴く”ことで理解を深めると同時に患者に寄り添って物事を考える努力をする。
- ・ 絶対に治せる歯科衛生士を目指す、誰からも愛される歯科衛生士を目指すためには、知識、技術、人間力のどれも欠けてはいけない。
- ・ 歯科衛生士には、患者さんとの長く深い関わりがあり 責任がある。患者さんへ行動変容を求めるだけではなく、患者さんのバックグラウンドを考慮しながら、一人一人に対応や言葉掛けを変えながら、寄り添うことが大事。絶対に治せる歯科衛生士をめざして、知識・技術・人間力すべてを高め続けてほしい。

参加者の皆様から寄せられた感想は、同封の岡山保険医新聞「歯科のページ」に掲載しています。ぜひご覧下さい。